



2012 ~ 2013 年度
R I テーマ

Peace Through Service 奉仕を通じて 平和を

国際ロータリー会長 田中作次(国籍・日本)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12時30分
ところ ホテルニューツルタ 〒874-0820 別府市北浜1-14-15
TEL (0977) 22-1110 FAX 21-1019
事務所 別府市西野口町1番1号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
<http://www.beppu4rc.jp/chuo/>
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	高宮 勝美	理事	大島由美子	役員	会長	高宮 勝美	S A A	亀井 孝
〃	森園 伸也	〃	村津 忠久	副会長	森園 伸也	直前会長	亀井 孝	
〃	木村きぬゑ	〃	近藤 賢司	幹事	前田 哲矢			
〃	森 宗明			会計	大江 知巳			

VOL. 25-26
2013年1月22日

第1127回例会

会報委員長 河村 貴雄

◆点 鐘 12:30

◆R S 別府中央R.C.の歌

◆唱 歌 冬の夜

◆ゲ ス ト ホッセイン・モハマッド・イムランさん
(米山奨学生)

会長の時間 会長 高宮 勝美

皆さん、こんにちは。会長の高宮勝美です。
寒い日が続き体調を崩されている方が多いようですね。今日も多くの方が欠席され少し寂しい例会になりましたが、さすが、溝部会員。と私は今日は感服致しました。ロータリアンとして、溝部会員は素晴らしい方だと再確認致しました。

溝部会員は、1月18日にご尊父様 相良好仁様 享年91歳がご逝去され、私も葬儀に参列させて頂きましたが、19日の土曜日に葬儀と慌ただしい中、私と前田幹事は本日の溝部会員の卓話の時間をどうするかと随分悩みました。しかし、さすがチャーターメンバーの溝部会員です。会員卓話に穴を空ける事無く出席頂き、私自身、溝部会員の様なロータリアンに成りたいと思いました。また、自らを省みる機会を与えて下さいました。是非、皆さんも、溝部会員の様な素晴らしい精神を見習って頂きたいと思えます。

今日は会員の皆さんが溝部会員の卓話を楽しみにしておりますので、会長の時間はこの辺で終わらせて頂きます。

◆出席報告 出席副委員長 衛藤 秀子

本日 の 出 席	会 員 総 数	27 名
	出 席 者	16 名
	事前メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	2 名
	出 席 免 除	1 名
出 席	欠 席 数	8 名
	出 席 率	61.54 %
前 々 回 の 訂 正	出 席 率	80 %
	事後メイクアップ	2 名
	理 事 会 承 認	1 名
	出 席 免 除	2 名
	修 正 出 席 率	88 %

連 続	— 回	
通 算	744 回	100 %

・メイクアップ

事前
事後 近藤 (別府北)、森 (別府東)
欠席 木村、亀井、平野(英)、河村、森、
中尾、大江、佐藤
理事会承認 梶田、岐部
出席免除 鳴海

◆幹事報告 前田 哲矢

—ロータリー理解推進月間—

1. 本日の卓話
「大分県の中の朝鮮半島」溝部 仁会員



2. 本日のゲスト
 ホッセイン・モハマッド・イムランさん
 (米山奨学生)

3. **訃報**

・当クラブ 溝部 仁会員のご尊父様(相良好仁様 享年91歳)がご逝去されました。お通夜が18日(金) 19:00～、ご葬儀が19日(土) 13:00～、JAべっぷプリエール天寿の杜に於いて執り行われました。謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます。

4. お祝い
 会員誕生日 平野英壽会員 (1月25日)
 *記念品をお渡し致します。

5. 例会変更のお知らせ
 大分1985RC 1月28日(月)の例会は、クラブ内研修会の為 同日12:30～コンパルホール会議室に場所変更
 竹田RC 1月29日(火)の例会は、新年家族会の為 1月27日(日)18:00～ホテル岩城屋に日時・場所変更
 大分RC 1月29日(火)の例会は新年家族例会の為 同日18:30～春日神社に時間・場所変更
 別府東RC 1月31日(木)の例会は、例会場の都合の為 同日12:30～ホテルサンバリーアネックスに場所変更
 大分南RC 2月1日(金)の例会は、職場訪問例会の為 12:30～日産プリンス大分販売(株)に場所変更

6. 次週の予定
 「ゲスト卓話」 大分合同新聞社
 編集局報道部記者 友永敬介氏
 「会員コラム」 村津忠久会員
 *原稿をお願いいたします。

7. 本日の回覧
 ①豊後高田RC 週報
 ②自衛隊別府連隊後援会より「扇山」
 ③全国自衛隊父兄会より「おやばと」
 ④日本ロータリー親睦ゴルフ大会のご案内
 ⑤「第2720地区 2012-2013年度 地区大会」出
 ・欠席

8. 本日の配布
 ①週報No.1124、1125、1126
 ②第2720 地区 2012-2013年度 地区大会パンフレット

スマイルボックス 副委員長 梶原 和朗

- 高宮会長
 溝部会員、取り込み中の忙しい中、会員卓話に来て頂き感謝致します。さすがロータリアンですね。
- 村津会員
 今年、5月25日(土)、神戸市で開催される「全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」に出演する別府ロータリーコールの練習が昨夜から始まりました。テレビドラマ「水戸黄門」の主題歌「あゝ人生に涙あり」と、「木枯らし紋次郎」の主題歌「だれかが風の中で」の2曲です。歌いやすい曲ですので、新たにチャレンジされる方を募集します。声をかけて下さい。御願いに代えてスマイル。
- 衛藤会員
 大寒というのに今日はいくらか暖かですね。溝部先生の卓話、楽しみにしています。先生、お忙しいのに本当にありがとうございます。
- 森園会員
 溝部先生、お忙しい中、卓話ありがとうございます。いつも楽しい卓話ですので、本日も楽しみにしております。
- 溝部会員
 父の葬儀に際し、御供花を頂きありがとうございました。

卓話 溝部 仁

大分県の中の朝鮮半島レジュメ
 一 はじめに
 平成十七年に、標題のタイトルで第二弾を発表した。特に、宇佐八幡宮の宇佐は、朝鮮語から読み解ける、と指摘した。また、宇佐八幡宮と関係の深い安心院の地名は、朝鮮語で解読できる、と論述した。さらに、国東のホウヤク祭と玖珠の宿武内宿禰を祭っている武内神社の牛馬信仰は、これまで、大分県の民俗学では、『特殊・異例』と



されてきた。

しかし、これらの祭りが、**朝鮮半島の祭**であり、朝鮮半島の影響が非常に深いことも証明してきた。くわしくは『拙稿』を一読してほしい。宇佐八幡宮の出発点ともいわれる**御許山**や**中津の大貞八幡宮**も**朝鮮語で紐解けた**。『拙稿』を一読してほしい。今回は、宇佐八幡宮最大の祭祀である、行幸会（八撰社のうち五社まで）について考察してみたい。

二 行幸会と朝鮮

一 香春岳と朝鮮

衆知のように、福岡県田川に聳える香春岳は、宇佐八幡宮と大変深い関係がある。ここで採取された銅で銅鏡を製造し、前記した大貞八幡宮にある三角池の薦を枕に編み、宇佐八幡宮に奉納し、行幸会が始まるのである。

『香春岳』という本の中で、田村圓澄氏は、「私が、生まれて初めて朝鮮半島の土を踏んだのは、一九七一年（昭和四十六年）であったが、その後も訪韓の機会が続き、韓国の友人も増えてきた。あるとき友人のひとりから、朝鮮語の（ ）が『峻しい』という意味を持っていることを教えられた。残念なことであるが、朝日を受けて白く輝き、夕日を浴びて朱に染まる香春岳の姿を見ることは、太平洋戦争後にはできなくなったが、学生の頃の私の印象では、香春岳は峻しい山であった。『峻しい』という言葉は、樹木に覆われた山では実感になり難い。山肌、岩肌の全山が眺望できるとき、山の峻しさも見渡せる。秀麗な香春岳は筑豊平野のどこからでも眺めることができ、一目見るとその山容は峻にやきつき、忘れることはできなかつた。香春岳は『カパル』の山である。**糸島の可也山**や、福岡と佐賀の境にある**背振山**と同様、**香春岳もその近くで生活を営む朝鮮半島からの来住者により、母国の名呼ばれていたのであろう。**」と述べている。

二 八（五）撰社と朝鮮

香春岳の銅鏡と三角池の薦を八幡神に奉納すると、次は、八撰社（八か社）巡幸である。順番にしたがって、考察してみたい。なお、行幸会の開始の時期については、一般的に『五つの説』がある。これについて、すでに『拙稿』で述べてあるので、一読いただきたい。この研究をするのに、最新の研究論文として、昭和五十六年に大分県教育委員会が発行した『行幸会道』があるので、これを参考にして、考察と論評を

くわえてみたい。

(1) 封戸郷田笛社

最初に巡幸するのが、封戸郷田笛社に行く。封戸も安心院と同様に、とても読めない。解析の前に、同じ時で封戸について説明しておきたい。衆知のように、封戸といえば、大化の改新によって定められた貴族・官僚に対する給与制の一種であるが、標題の郷は、宇佐八幡宮の神領の封戸であるので、何故、わざわざ封戸ではなく、封戸と称するようになったのか、不思議ではなからうか。『フベ』の音から朝鮮語で迫ってみたい。『フ』は、朝鮮語で『亭』という。『ベ』もしくは、『ペ』は、『呷』という。この二つの韓国語を合わせると、『亭呷』となる。発音は、『フーベ』である。意味は『後配』と（ ）とある。恐らく、後輩であろう。宇佐八幡宮を創建した新羅からの渡来人の後輩、親戚が居住していた可能性が極めて高い。だから、最初に巡幸したのではないかと推測できる。宇佐八幡宮を創建した、新羅系の渡来人の後輩が居住していたからこそ、最初に訪れたのではなからうか。なお、後述するが、八撰社の多くが、辛嶋勝乙目に関係する社である。ここで大胆な推理が許されれば、封戸郷に大神比義の後輩が居住していたと仮定すれば、行幸会の創設やその目的がある程度、明瞭になってくる、と推察できる。今後、これらの傍証を探索・検証したいと考えている。

(2) 向野郷鷹居社

次が、『向野』である。これも棕野と書き、『ムクノ』と読むならば、何の問題もない。これも音で迫ってみた。しかし、残念ながら、『ムクノ』と発音する朝鮮語はなかった。しかし、『목다』という言葉があった。発音は、『ムクタ』である。**意味は旅館に泊まる**とある。中野幡能氏の著書には、「『駅館』がありここで一泊する。」と記されている。従って、発音は、若干異なるが、前段は、『ムク』で同じ発音となる。ここで留意しなければならないのは、意味が宿泊するになっている点に注目すべきであろう。ここに重大な指摘をしておきたい。『豊前志』の著者渡邊重春は、向野について「下矢部村、福貴野村等の田の字に向野あり。…以下略（傍点筆者）」と述べているように、古代は、向野ではなく、（ ）と称されていた可能性が極めて高いことが推測できよう。このように類推して行けば、古代の向野は、朝鮮語の（ ）と呼ばれており、宇佐八幡宮を創建した新羅からの渡



来人の関係者が居住していたために、彼らとの交流と親睦、安否を尋ねるために宿泊していた可能性が極めて高いことが推測できる。

(3) 辛嶋郷瀬社

『瀬社』や『郡瀬社』と呼ばれていた。この名の由来については、すでに朝鮮からの影響が強いことは定説（辛嶋勝目に比定）となっているので、論述しないが、朝鮮からきている可能性は、極めて高い。

(4) 泉社（酒井泉社）

『豊前志』に、注目する記述がある。「辛嶋村なる泉社を酒井社とも云う（傍点筆者）」とあるので、このあたりがこの社の由来である可能性が高い。前記の辛嶋郷と同様に朝鮮の影響が強いことが理解されるであろう。

(5) 高家乙咩社

高家と書いて、『たけい』とはとても読めない。やはり、朝鮮語の影響があると推測できるが、残念なことに、『豊前志』には、不明である。と書かれている。乙咩社についても同様である。そこで、まず『高い』と『家』を『朝鮮語辞典』で調べたが、『コ』と『カ』の発音しかない。これではとても『タケイ』にはならない。断念しようかとも思ったが、『大宰管内志』と『角川日本地名大辞典四四 大分県』に高家のところに、()とも称していた、と書かれていた。これにヒントを得て、次のように解析を試みた。『タカエ』の『タ』は、朝鮮語で、『다』と書く。発音も『タ』である。この字には、いろいろな解釈があるが、『多数』という意味がある。しかし、次のような言葉を探すことができた。すなわち『가야』という言葉である。発音は『カヤ』である。そうあの朝鮮南部にあった『伽倻』である。二つの解析を合わせると、『タカヤ』となる。すなわち、『伽倻から渡来した者が多く居住していた。』となる。大方のご批判と叱責をお願いしたい。

なお、『乙咩』について少し、解析してみたい。『乙』は、朝鮮語で、『을』という。発音は『ウ

ル』である。意味は、日本語と同じで、第二番目という意味がある。次に『咩』は、通常『トメ』とは、読めない。これを『大漢韓辞典』で調べてみると、驚くべき意味があった。朝鮮語で、『갈을』、発音は、大変難しく『カプウム』となる。意味は、()である。この二つを合わせる、『第二番目に恩返しした』となる。この事例でわかるように乙咩社は、宇佐八幡宮の封戸ではないにもかかわらず、『何故、年貢を納めるのか』という謎が今日まで、解明されていなかったのである。この謎が解明できた。とともに、第一番目に恩返しした地区があるのか、疑問に思われると推測する。これは、次の奈多八幡宮までの巡幸で解明されることを予告しておきたい。

『伽倻』から渡来した人々は、当初鍛冶の技術か鉄の農機具がなく、宇佐八幡宮を創建した新羅系の渡来人にその技術か農機具をもらったのではなかろうか。この借りがあり、この借りを返した、と推測できないだろうか。だから、この行為に対して、行幸会の時に、高家の郷にある、乙咩社に巡幸するようになったと推理できよう。

なお、次が、(6) 大根川社・(7) 妻垣社・(8) 辛川社（ここは、大神宝の鉾だけ供える。…省く場合が多い。）と (9) 小山田社であるが、別な機会に考察したい。

三 むすび

行幸会に関わる五社巡幸を考察したが、これらの地名等も朝鮮語で、解読できた。彼らは、六年に一度、八幡大神に感謝するとともに、一族との旧交を温め、親睦、親和と安否を確認することが、行幸会の最大の目的ではなかったかと推察する。だから、最初に、田笛社に行き、安否を確かめ、次に向野に寄って、宿泊し、親睦を深めたのではなかろうか。八撰社が終わると、第二段として来縄から、奈多宮までの行幸会があるが、これも別な機会にお話してみたい。

会員コラム

平野 教康

挨拶について

平成22年10月に入会し3年目に入会しロータリーと言うより別府中央ロータリーについてこの頃感じた挨拶をお話します。別府中央ロータリーの方たちの挨拶はとても温かい心がこもっていて

幸せを感じます。特に衛藤秀子さんの謙虚で優しい挨拶、元気で明るい村津さんの挨拶と態度は尊敬に値するものです。会でいろんな行事も大事ですが一人一人をお互い尊敬しあい素晴らしい挨拶を心がけたいものです！